新報

縣廳局認可

明治十八年三月十七日
（西暦一千百八十五年）
火曜日
第九百十八號
日曜日休刊

官省院府縣

病院屋獨逸國ウルツブーニッツ

年度ニ引ル施行候條

臣為替三條實美

○第十條　各廳長官ハ前條但書ニ因リ増額若クハ別途支出ヲ要スルモノアルトキハ其事由ヲ詳具シ明細ナル計算書ヲ添ヘ大藏省ヲ經由シ太政官ノ特裁ヲ請フベシ

○第十一條　歳出中各款ノ金額ハ五ニ流用スルヲ得ズ一款中各項ノ金額ハ大藏省ヲ經由シテ太政官ノ特裁ヲ請ヒ一項中各目ノ金額ハ大藏省ノ承認ヲ受ケ之ヲ流用スルヲ得○第十二條　太政官ニ於テ前條臨時増額別途支出若クハ各項ノ金額流用ヲ許可シタルトキハ其旨ヲ大藏省及ビ會計檢査院ニ達シ大藏省ニ於テ各目ノ金額流用ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計檢査院ニ通知スベシ

○第十三條　各廳長官ハ増額別途支出若クハ各項金額流用ノ許可ヲ得ザル前又ハ各目金額流用ノ承認ヲ得ザル前ニ豫算外ノ支出ニ係ル新規ノ契約ヲ爲ス得ズ○第十四條　各廳長官ハ收入ヲ以テ既定ノ歳出豫算ヲ増加スルヲ得ズ○第十五條　大藏卿ハ各廳豫算外ノ支拂請求ヲ承認スルヲ得ズ○第十六條　歳出豫算中國庫豫備金ノ一款ヲ置キ大藏卿之ヲ主管ス○第十七條　國庫豫備金ヲ分テ第一豫備第二豫備ノ二種トス其第一豫備ハ太政官ノ裁定ヲ經テ支出シ第二豫備ハ支出ノ後太政官ヘ開申スルモノトス　第一豫備ハ臨時非常ニ係ル特別ノ用途ニ充ルモノトス　第二豫備ハ年金恩給過誤納下戻等ノ豫算額ニ不足ヲ生スルトキ之カ補充ニ供スルモノトス○第十八條　既定ノ豫算ニ對シ國庫豫備金ノ増額ヲナサントスルトキハ大藏卿ハ特ニ其財源ヲ定メテ太政官ノ裁定ヲ請フベシ○第十九條　歳入ノ額豫算ニ及ハサルカ爲メ歳入ヲ以テ歳出ヲ償フ能ハサル場合ニ於テハ大藏卿ハ臨時其補充ノ方法ヲ按シテ太政官ノ裁定ヲ請フベシ○第二十條　本條規中豫算書報告書ノ樣式ハ大藏卿ノ定ムル所ニ據ルモノトス○第二十一條　現行法規中此條規ニ牴觸スル條項ハ廢止ス

官省院府縣

○太政官達第十二號

歳入出科目條規左ノ通相定來ル十九年度ヨリ施行候條此旨相達候事

明治十八年三月十六日　太政大臣為替三條實美

歳入出科目條規

第一條　歳入出科目ハ之ヲ分ツテ款項目節ノ四段トシ款ヲ分ツテ項ヲ置キ項ヲ分ツテ目ヲ置キ目ヲ分ツテ節ヲ置ク○第二條　歳入出ノ性質若クハ主管ヲ異ニシ獨立ヲ要スルモノヲ款トシ款中其種類ヲ異ニスルモノヲ項トシ項中ノ種類ヲ細別スルモノヲ目トシ目ノ成立ヲ明ニスルモノヲ節トス○第三條　款若クハ項ヲ廢置變換セントスルトキハ大藏卿ノ上申ニ據リ太政官ニ於テ之ヲ定ムベシ○第四條　目及節ノ廢置變換ハ大藏卿之ヲ定ムベシ但各廳ハ目節ノ廢置變換ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ之ヲ大藏卿ヘ請求スベシ○第五條　各廳ニ於テ臨時支出ノ特許ヲ得タルトキハ科目ノ新設ヲ要スルコアレハ大藏卿之ヲ定メ項以上ハ太政官ヘ上申スベシ○第六條　現行會計法規中本條規ニ牴觸スル條項ハ廢止ス

官省院府縣

○太政官達第十三號

歳入出科目表別冊ノ通相定候條此旨相達候事（別冊略）

但作業費ニ係ル科目表ノ儀ハ追テ相達候マデ從前ノ通相心得從來ノ大科目中科目小科目ヲ改メ款項目節ト稱スベシ

明治十八年三月十六日　太政大臣為替三條實美

時事報

佛清事件ノ奇效

文明社會交通頻繁ノ世ノ中ニテハ凡ソ他國ニ大事件アレハ善惡利害必ズ其影響ヲ被ルヲ常トス耳古キ一例ヲ擧クレバ千七百年代ニ米國ガ英國ニ背テ獨立セシ折、佛國ニテハ忽チ其餘響ヲ受ケ當時革命ノ梅雨ハ新世界獨立ノ春風ニ吹カレテ大ニ其破綻ヲ促カセシカバ後ノ歴史家モ佛國ノ革命ヲ評シテ米國獨立ノ返振力ニ成リタリト云ヘリ夫レト是レトハ事異ナレドモ客歳秋ノ頃ヨリ佛清ノ間柄益〻齟齬シ臺灣福州ノ砲擊、東京ノ血戰、本年ニ入リテハ石浦峯渡ノ水軍等東洋未曾有ノ大戰爭アリ然ルニ我國ハ一衣帶水ヲ隔テ、此大戰爭ヲ傍觀スル位地ニ立チタレバ爲メニ其影響ヲ受ケテ發明利益スル所少ナカラズ先ツ此事件アリタルガ爲メ我國ノ各新聞社ヨリハ特ニ通信員ヲ支那ニ派遣シ其電報郵信ハ直チニ之ヲ全國ニ傳ヘタレバ我國中ノ人民モ電信郵便ノ效用ヲ知ルト同時ニ新聞ノ效力ノ大ナルヲ知リ佛清兩國ノ强弱ヲ知リ又國交際ノ事情ヲ知リ隣人ノ失計ヲ見テ自カラ其覺悟ヲ蹈マザルノ覺悟ヲ爲ス可キノ必要ヲ知リ特ニ此際各新聞紙ノ論議スル所ハ恰カモ虎ノ見セ物ノ傍ニ居テ虎ノ講釋ヲ爲スト一般、自然世人ノ耳目ニモ入リ易クシテ爲メニ其外交思想ヲ養成シタルヿ少ナカラズ此他尙間接直接ノ好影響ヲ擧ゲタラバ三日三夜ノ長物語ニモ討ヘ盡スト可ラザルベシト雖モ其中最モ著明ナル奇效トモ云フ可キハ此事件ガ彼ノ儒教主義ヲ破壞シテ復タ顔色ヲカラシメタルノ一事ナリ

抑モ我國正朔ノ國是ハ維新以來西洋近時ノ文明ヲ採用スルニ定マリ隆運駸々奔馬ノ如ク文明主義ノ一線ヲ以テ明治ノ昭代ヲ貫キ來リ外國人モ此有樣ヲ見テ時ニ出藍ノ評ヲ下シタリシニ物動テ反動之レニ繼クハ事勢ノ自然、明治十四五年ノ頃ヨリ社會ニ一種ノ奇相ヲ呈シ復古ノ風潮上下ニ流行シテ古物ヲ崇尙シ舊套ヲ欽慕シ攘夷劍起リテ佩刀ヲ想ヒ士氣奇妙ニ振フテ實刀其價ヲ增シ抹茶捕花琴棋古書畫ノ徵ニ至ルマデモ盤則ノ風流男子ニ接シテ復タ天日ヲ見ルニ至リ三千年前支那產ノ儒教主義ハ劇ニ再燃ノ兆ヲ現ハシテ當座ノ古書學校兒童ノ卓上ニ陳列セラルヽヿトナリタレバ古老儒流ハ雀躍シテ喜ビニ堪ヘズ天ノ未ダ斯文ヲ亡サヾル果シテ此奎運ニ逢ヒタリトテ意氣得々タル其際ニ彼ノ佛清事件アリ特ニ其福州砲擊ノ折ニハ支那ニテ當代ノ師宗仰カレ孔孟ノ室ニ入ル可シトマデニ評セラレタル彼ノ張佩綸何如璋ノ如キ平生果シテ何ノ實ヲ講セシカ風聲鶴唳ダレニ其羅捲ハント欲シテ益顯ハレ今ハ貶セラレテ禁錮ニ身ヲ以テ免カレ一封ノ捷奏ハ早ク丸重ノ天ニ達シ古ノ隱客ト爲リタル程ニテ儒流ノ開宗復タ人ニ對ス可キノ顔色ナシ敗將一身ノ勇怯、儒教主義ヲ累ハスノ理由ナキニ似タレドモ人間ノ感情ハ案外ニ銳敏ニシテ我國一般ノ人心ハ最ニ支那流ヲ喜ビタル程ニ今ハ之ヲ嫌厭スルヿト爲リ其嫌厭ハ無情ノ器具書畫ニマデニモ及ビ儒教主義ノ如キモ亦其支那產タルヽ故ヲ以テ漸ク我國人ノ信用ヲ失ヒ最早兩三年前ノ地位ヲ保ツ能ハザルニ至リタリ凡ソ一國固有ノ文學ハ一般ニ論ズレバ其國ノ盛衰ト共ニ消長スルモノナレバ儒教主義ノ如キ樣ヒ文明社會ニ通用ス可キモノナラシムルモ今後ハ豪ク其勢力ヲ維持スル能ハズ然ルヲ況ンヤ三千年前ノ陳腐既ナルニ於テヲヤ其流行ノ一時ニ止マリテ偶然ニモ佛清事件ノ餘響ニ蹉倒サレタルハ決シテ謂レナキニ非ザルナリ左レバ彼ノ儒教主義ノ兩三年間ニ一時再燃ノ氣運アリシハ燈ノ將ニ滅セントシテ稍其明ヲ加フルガ如ク眞目長逝ノ期ニ際シテ纔ニ一振ノ假相ヲ呈シタルモノニシテ單ニ其成行ニ任ズルモ自カラ灰滅スルノ日遠キニ非ザリシナラント雖モ之ヲシテ其自滅ヲ速カナラシメタルモノハ即チ佛清事件ナルガ故ニ我輩ハ儒教主義ノ現狀ニ陷リシヲ見テ佛清事件ノ與リテ大ニ力アルヲ信ズル者ナリ

雜報

○中村秦藏氏　曩ニ利根川ヘ出張仰付けらるたる中村內務大書記官は屋工師關人ムルドル氏と共に去る十四日出發したり

○富田冬三氏　曩に蘆町紡績所事業觀察のため出張仰付けられたる富田農商務權大書記官は去る十四日出發したり

○工部省　工部大書記官石井忠亮外四氏は去る十四日左に通仰付けられたり

御用有之愛媛縣并鹿兒島縣出張被仰付候事　大書記官　石井忠亮

電信局長出張中代理被仰付候事　權大書記官　福田重固

御用有之阿仁鑛山局出張被仰付候事　少書記官　紅林武治

紅林少書記官出張中會計課長代理兼勤被仰付候事　少書記官　丹羽維孝

御用掛　高原弘造

御用有之横須賀造船所出張被仰付候事

○歸任　曩に上京せる浦和始審裁判所長判事島田政章前橋始審裁判所長判事千谷敏德氏い去る十四日出發歸任したり

○一府兩縣へ出張　內務省御用掛山崎元脩氏と兩省に於く去る十四日明治十八年第一回名古屋大拔金澤鹽備開業試驗主事として大坂府并愛知石川兩縣へ出張申付けらるたり

○留別會　元老院權大書記官たりし山本弘氏が北海道海產事業に從事する爲め辭表と差出して願濟となりたりとの事は前號の紙上に記載せしが氏は愈近日東京出發にて北海道へ赴くにつき一昨十五日向岡國の中村樓に於く元老院代奏任官一同と招請し盛なる留別會を開きたるよし

○御雇外國人雇報　上海の日本領事館御雇書記生獨逸人ヘルマン スチッチ レーシ氏い來四月十日が滿期にて解雇せべき筈の處猶ほ向ふ一箇年間雇續になりたり

○出發　石坂一等軍醫正い明十八日、當地出發、大拔陸軍病院へ赴くよし

○コウギーチの占領　日耳曼が大洋洲中コウギーチの北部と占領したる事に付ては屢本紙上よも記載せしが今又英國地理協會及コウギーネ探究會紙の社員スクレートル氏がタイムス新聞に寄せたる書面を見るば日耳曼政府は孫てコウギーチの北岸と占領せんと欲し其目的と達ぜんが爲めよ有名ハ物理學者よして且世界周遊に名と得たるフかしめたるい略は其任帶する使ると知らさりしものあきにあら方は其南岸のみ占領せしは豫め容ゼず然るに英た信すべらすず地にして沼澤多あれとも北岸は住者は各其欲を地よ居すると多の殘流あも春の如し左れ占領は果して日耳れ共コウギーチの民地たるの望あ

○上海來信　上海に左ハ數項と記載清國政府は再び着手中なり右清北天津に達せり幾十年の後程大小官吏の職ゐるよし當時は益々盛んに行よは繩と張りて の通行と許さ一河毎よ大抵三官吏よ賄ふて獄の米作は先つ可さ雖とも今年は し○總督及び巡撫の臨事を促すの金と受くるとの大分あるよし

○日曜日を休くハたり

富山縣ニ於テ香井田川、小常願寺川、（自從十日迄日曜日ヲ休ノ間ハ日曜日トス）

十日迄日曜日ヲ休ノ間ハ日曜日トス

春の若鮎とやたら肥りたる鮎がおく當だよき法なれとたるか我々には分と一度にやらかすちん近來東京近傍ゆる邊には海にも既たるを見て或る所と驗くの外鮎漁禁しとう解に聞きたる